

## はじめに

山形県衛生研究所における令和3年度の研究成果及び業務実績等について、所報第55号としてとりまとめました。

地方衛生研究所は、地域における公衆衛生の科学的・技術的拠点として、疾病予防および健康増進等に係る試験検査や調査研究、公衆衛生情報の収集解析、地域保健関係者の研修指導を主な業務としています。

令和3年度も、引き続き新型コロナウイルスへの対応が主要業務となりました。特に7月にはゲノム解析装置が導入され、新型コロナウイルスの本格的なゲノム解析が開始されました。8月の第5波では、通常の検体受け入れ1,808検体、RT-PCR法による変異株解析413検体、ゲノム解析は114検体に上り多忙を極めました。その後いったんは小康状態となりましたが、12月末に県内で初めてのオミクロン株を確認して以降の第6波では、1月から3月にそれぞれ4,137、1,007、364検体を扱うこととなりました。インフルエンザの流行がなかったことが幸いでした。

私たちは、健康被害事例に際し、迅速・正確な検査結果を出すことに努めるいっぽう、被害予防に向け、感染症の疫学研究、自然毒検査法や分析法の開発を中心テーマとして調査研究に取り組んでいます。論文「山形県内マダニのマダニ媒介感染症病原体調査」が令和3年度日本獣医師会獣医学術賞獣医学術奨励賞（公衆衛生部門）に選ばれ、演題“ドクササコに含有される有毒成分の系統的精製法および一斉分析法に関する研究”が第58回全国衛生化学技術協議会年会（令和3年11月開催）において優秀発表賞を獲得する等、コロナ禍の中、良い研究発表が行われていることは、大変喜ばしく、また大きな励みとなっているところです。

本号を通じて当研究所の業務内容および研究成果をご高覧のうえ、ご批判やご意見等をお寄せいただければ幸いに存じます。

山形県衛生研究所  
所長 水田 克巳